

津久井中央ロータリークラブ



事務所・例会場

相模原市緑区中野 1029 津久井商工会館 2F

TEL 042-780-0201 FAX 042-850-4830

例会日 毎週木曜日 時間 12:30~13:30

会長 前沢弘之 幹事 井上 旭



第 1153 回 平成 30 年 8 月 2 日(木曜日)《4》

司会 杉本信一-SAA 会長 前沢弘之-会長 斉唱 君が代 四つのテスト

会長挨拶 前沢弘之-会長

先週の例会は、津久井やまゆり園の事件から丸2年ということで、黙祷から始めさせていただきました。改めて、犠牲となった方々を追悼申し上げ、また、あの事件で傷付けられた方々のご回復を祈りたいと存じます。

私、あの事件のことを考えるたびに、昔読んだある小説を思い出すのです。

アーシュラ・K・ル・グインの「オメラスから歩み去る人々」という短編です。

こんな話です。

オメラスという架空の都市。美しい街で、美しい人々が幸福に暮らしている。

君主も奴隷もないし、軍隊もない。株式市場も広告も、秘密警察も爆弾もない。子供たちは幸福そのもの。高度な科学知識と技術は持つが、彼らは何が必要不可欠か、何が必要不可欠でも有害でもないか、何が有害か、正しく見極められる。「彼らは決して単純な人たちではなく、おめでたい羊飼いで、高潔な野人でも、退屈なユートピア人でもない。彼らは私たち同様に複雑な人間だ。」…にもかかわらず、彼らには心やましきというものがなく、歓喜と勝利感に満ち溢れて暮らしている。そして、この都の「夏の祝祭」の様子が、美しく描写される。

信じられない？ そんな夢のようなところがあるはずがない。

そうですね、では、オメラスのある秘密を明かしましょう。

— 街中の、立派な建物の地下、狭くて暗くて、湿った穴倉のような一室に、一人の子供が閉じ込められている。6歳ぐらいに見えるけれど、もうすぐ10歳になる精薄児（原文のまま）が、裸で、汚物にまみれて、幽閉されている。

実は、オメラスの幸福も美しさも、人々の友情も健康も、知恵も技術も、あらゆる優雅ささえも、その子がそこに閉じ込められていることで成り立っている。助け出したりしたら最後、オメラスの全ての繁栄も、美も善も喜びも、すっかり失われる。

そして、そのことを、オメラスの全ての人々が知っている…。

この寓話の捉え方は、様々であると思われ、感じ取られるものも人それぞれでしょう。人によっては、不謹慎と思われる方もあるでしょうし、何より事件の被害者の方々の心を逆撫でしてしまう虞もあります。

にもかかわらず、私は、自分がなぜこの小説を思い出さずにいられないのか、少し考えてみました。

私は、次のようなことを知っています。

- 1 私は（会員の皆さんも）、何不自由なくとまではいかないにしても、それなりに自由を楽しんでいる。
- 2 この世界には、知的障害者と呼ばれる方々がいる。それも少なからずおられ、身近にもいる。
- 3 この社会（我が国のような社会）において、その知的障害者の少なからぬ方々が、隔離的な扱いを受けているという現実がある。（やまゆり園がまさに…）

時々、こんなことを、何気なく（本当に何気なく）言ったり聞いたりしませんか？

【出席報告者 田畑和久委員長】

現在会員数	出席対象数	本会出席数	本会欠席数	本会出席率	前回修正出席率	前々回修正出席率
15	14	13	1	92.86%	71.43%	93.33%
本日欠席者	小川洋一会員					

「世の中には、飢餓や戦争や疫病で苦しんでいる人々が沢山いる。五体満足でない人々が沢山いる。そういう人々のことを考えると、自分は幸せだと思う」

(ドキリとしませんか?)

…もしも、幸福がこのようなものであるとしたら、つまり、不幸な人々と比べて、「自分はそうでなくてよかった」と(ある種の優越を)感じることを(も)幸福(いわば消極的幸福)と呼ぶのだとしたら、こうなりません。

- 「私たちの幸福は、不幸な人がいることによって成立する」

これは、なんともおぞましいことです。オメラスは、見知らぬ別世界の話ではなく、まさに私たちの社会そのものだということになる…。

一方で、私は次のようなことも知っています。

4 福祉という観点から、障害者の方々に対しては、税金や年金や社会保険による援助が(お世辞にも十分とは言えないにしても)なされている。

5 共生の理想が叫ばれ、ノーマライゼーションが説かれ、自己決定支援ということも言われるようになっていく。その具体策として、(その不十分さや、様々なシステムの問題点を指摘されつつも)例えば、作業所の整備や、成年後見制度や家族信託といった法的制度の整備、グループホームや保険会社の生命保険信託といった民間対応なども進みつつある。近年は、「地域生活移行」ということが言われ、隔離的な施設処遇からの脱却が図られ始めている。

(私は、成年後見業務も行っていますので、こういうことに少し詳しいのです。障害を持ったお子さんを持つ親御さんから、親亡き後について相談を受けて、一緒に悩んだりしています。)

「障害」の捉え方(あるいは心構え)についても、世界的な思潮はかなり進んでおり、例えばWHOは「医学モデルから社会モデルへの転換」ということを、もうだいぶ前から提唱しています。

～ 旧来の考え方は「医学モデル」。すなわち障害という現象は、病気やケガと同様「ある種の健康状態(不健康な状態)」の問題であって、Aさんという障害者個人の問題と捉える。従って、医療による治療が主たる対応となる。政治的には、「保健」の問題となる。

これに対し、「社会モデル」は、障害を主として社会によって作られる問題と捉える。障害は、(Aさんがある種の健康を害されていることを社会的に責められるいわれはないし、むしろ心身のある種の特徴に過ぎないから)社会の諸々の状態(例えば、道や駅や電車の形状とか、学校のあり方、諸制度の仕組みとか…)の集積として生じた現象であると捉える。社会環境が障害を作り出すと捉える。従って、障害の問題は個人に帰属するのではなく社会に帰属する。だから、問題への取り組みは、社会生活の

全分野への障害者の完全参加、社会への統合のために、人々がこの社会をどのように変えていくかだということになる。政治的には、人権問題である。障害は、医療よりも政治の問題が本質ということになる。

「医学モデル」から「社会モデル」へ、つまり、代わるべきは社会であって、障害のある人たちではないということです。

6 しかし、現実はその甘くない。道は遠い。ノーマライゼーションと言い、地域生活移行と言っても、資金や人材が大変である。(私、地域生活移行を試みて失敗したことがあります。)人々の意識も、簡単には変えられない(先ほど、医学モデルから社会モデルへ、ということを行いました。私がこれを知って、なるほどと思ったのがもう10年以上前です)。まして、この超高齢化、少子化社会では、早晩、財源も人材もパンクする可能性が高い。

以上、6つのこと(網羅的ではないかもしれませんが)を踏まえて、さてどうするか。

選択肢は、少なくとも次の3つです。

- ① 障害者のいない社会の実現を目指す。
～これは、優生思想そのものですね。悪い遺伝子の子孫に伝えないという、いわば抹殺の思想です。
- ② 共生社会の実現を目指す。
- ③ オメラスから、歩み去る。

さて、お気づきのとおり、私たちのクラブの選択は既に決定しています。

そう、②です。私たちは、竹の子作業所の方々とお付き合いをし、具会員は、毎週ボランティアでヨガ教室を開いていますね。一緒に桜を植えました。「やまのべ100人運動会」に参加して、毎年(みんな負けず嫌いだから)大人げなく、本気で戦っています。

私たちは、自分もオメラスの住人であることを知っている。そして、私たちが選んだ道のりが遠いことも知っている。共生社会なんて幻想かもしれないということを承知の上で、その上で、私たちは、選択したのです。ここにとどまることを。

…で、格好よく??終わりたいところですが、ここで終わったのでは浅いし、グインのまじめな読者に叱られるでしょう。もう一步踏み込んで、考えるべきは、オメラスから歩み去る人々のことです。

幸福は他者の不幸を前提する(場合がある)と言いました。同じように、次のように言えるのではないかと思います。

優しさは自分よりも弱い人、不幸な人の存在を前提する(場合がある)。

私たちの奉仕の理想も、自分たちよりも恵まれない人々の存在を前提する(場合がある)。

まあ、現実にはそんなのだから、それで何の齟齬もないわけですし、私たちは他人の不幸に我慢ならないから、よりよく生きようとするわけです。しかし、幸福も、喜びも、優しさも、思いやりも、品格も、あの地下室の子供の存在を前提するのだとしたら、これはやはり、恐ろしいパラドックスです。オメラスにとどまって、共生の理想を、奉仕の理想を説くだけでは、「障害者は、健全者に喜びや優しさ、品格といった『善きもの』をもたらすための前提として、いわば犠牲として必要なのだ」という恐ろしいパラドックスから抜け出せないのです。

別の道があるのではないかと。例えば、幸福も、優しさも求めない道。幸福と不幸、豊かさと貧困、強さと弱さ、そういった二分法を拒絶するような道。幸福がない代わりに、不幸もない世界…。でも、それは、おそらく、ある種の革命(もしくは宗教?)ですね。未だ誰も見たことのない世界です。

出家する、あるいは西行や芭蕉のように漂泊者になること。俗世との縁を断ち切る、文字通り歩み去る、という方法もあるかもしれない…。

では、ここにとどまるしかない私たちは、どうするのか。このモヤモヤを解消する術はないのでしょうか。

これは、私の力では及ばぬところなのですが、ヒントはあります。

例えば、「福祉は衝動である」と言った人がいるそうです。福祉という仕事は、正義とか善意とかいうことの前に、人間の深い欲望であると。困っている人や、弱い人を助けるというのは、人間の本能というか、深いところからくる衝動であると。(「現在社会はどこに向かうのか(見田宗介)」岩波新書)

だから、あれこれ言わずに、地下室の子供を助け出せばよいのです。それで世の中が悪くなるはずがない。

例えば、子供や若者たちが、自分は将来〇〇になりたいという時、純粹に、それが人に喜ばれる仕事だから、ということがあるのではないかと。元々、誰かに喜んでもらえることが自分の喜びであるということが、人間の欲求の構造そのものとしてあるのではないかと(これも同書。私は、見田宗介をほとんど信奉しています)。私たちは、そういうことに信頼を寄せてよいのではないかと。

但し、私たちの「幸福」というものを、例えば利益を獲得することや、(未来の)目標を達成することばかりに求めてしまうと、どうしても「効率」だとか「合理性」だとか「役に立つかどうか」というようなことを問題にせざるを得ない。それを突き詰めると、優生思想ですね。

根本的な問題は、そこにあるのではないかと。

だから、私たちがここにとどまってニコニコしていられるためには、私たちの幸福のあり方そのもの、自分が何に幸福(あるいは欲望)を感じるかという構造そのものを問い直す必要があるのではないかと。現代社会の行く末を考える時、私たちは、既に、そういうことをしないとまずい地点にいるのではないかと。

それが具体的にどういうことなのか(もしかしたら、ロータリー精神が当たり前になるような世界を目指すこと??)を、自分自身の課題として考え続けてみたいと、そんなことを考える(時々ですけれど…)、今日この頃です。



幹事報告 井上 旭幹事

ロータリー関係受領書類

ガバナー事務所

8月のロータリーレート 1ドル=112円

津久井 RC

例会変更通知

相模原東 RC

活動計画書

前年度幹事前役員章贈呈



スマイル委員会 田畑和久委員長

『スマイル報告 田畑和久委員長』



津久井中央 RC

前沢弘之 会員 今日とは長々とまるで独演会のようになっていました。すみません。

井上 旭 会員 小山さんまん頭ごちそう様です。幹事になって心にゆとりがないのか、スマイルする内容がなさすぎです。でもクラブの役に立ってない感じ！

佐藤祐一 会員 おまんじゅう、ありがとうございます。会長のおはなし、いつも楽しいですね。あついですね。お願いします。カップみそ汁はしじみにして下さい。とん汁はつらいです。

杉本信一 会員 楽しい例会にしましょう。

沼崎善充 会員 暑い！です～ネ。車があてにげされました。警察は何もしてくれません。相手はマザコンの女です。食欲がなく体重が **7kg** も減です。皆様も体調に気をつけてこの夏をのりきりましょう。

P.S スマホがついに 5 年目でもう少しでこわれます。電話がつながらなくても心配しないで下さ。い

水野 茂 会員 今日とは杉本さんが会場設営を全部していただいたので、スマイルします。

小山里枝 会員 暑中お見舞いでおまんじゅうを買ってきました。小川さん不在で残念。来週、さ来週と例会は休会ですね。皆様、夏バテしないよう気をつけて過ごしましょう。次回の例会では新会員をお迎えですね。わくわくです。

吉野賢治 会員 この暑さ、早く終わってほしいです。昨夜は相模湖花火見物に行きました。何年ぶりで雨に降られず、きれいな花火を見る事が出来ました。所用の為、早退します。

山崎和彦 会員 あつい、何しろあついですね。体調に気をつけて頑張りましょう。5 日から甲子園大会が始まります。ビールでも飲みながら、テレビでも見てゆっくりしたいですね。

森田正紀 会員 早いですね。もう 8 月ですか？ 会長の時は長く感じましたが、終ってみれば月日がたつのが早いです。連日暑い日が続いていますが、お身体に気をつけてください。

田畑和久 会員 普段見ない会社のカード利用明細を見たら、ソフトバンクから 5000 円が引き落とされているので問い合わせしたところ、覚えのないアドレスの契約が 2005 年にされていたとのこと。毎月 5000 円が 13 年に渡り、ドブに捨てられていたことが先程判明しました。約 80 万円…悲しいです。皆さんもネット系の契約や支払いのチェックをした方が良いでしょう。